同志社香里高等学校　武田 勝頼さん(高3)　田中 啓詩さん(高3)　中川 紀香さん(高2)　浜田 光さん(高3)　蛭川 亮さん(高2)　松下 由果さん(高2)　※50音順

被告人が無罪を主張している架空の刑事事件を題材に、検察・弁護側それぞれの立場で事件を検討して、支援弁護士の指導のもと、刑事裁判を通じて物事のとらえ方やその表現方法を競う「高校生模擬裁判選手権」関西大会に、有志で参加。昨年行われた第8回大会では、金銅の初優勝を成し遂げました。

高校生と弁護士会会長、
対話で見えてくる弁護士の役割

あなたを一人にしない

先入観を持たずに、依頼者にニュートラルに接する

生徒　被告人が無罪を主張した代弁するなかで、結果的に“悪い人”を弁護することになることもあるかと思いますが、その時の気持ちはどうでしたか？

松葉　刑事弁護をするとき、主観的には無罪とは思えないと思ったり、本人が無罪を主張していると、こんな場合もあります。しかし、弁護士は、まずは依頼者の言いぶんに耳を傾けるところから始めます。みなさんが模擬裁判を通じて、同じ事実でも検察側と弁護側とで見方が異なることを学んでもらえたと思いますが、つまり事実も立場が変われば見方が変わります。例えば円すいは、上から見ると円だけど、横から見ると三角形です。ですから、弁護士は先入観を持たずに話を聞きます。そして最大限組み立てられる主張を考え、それに合う証拠を精査する。すると、思わぬところで依頼者の言い分が本当だったりすることもあるのです。反対にこの人は大丈夫！と思って弁護しても、あとで違った証拠が出て困ることもあります。フラットに話を聞いて、所懸命やるしかないのです。

生徒　いろんな法律を頭に入れて今ようは、なかなかできないと思います。それに自分が言うと本当かどうか疑われそうなので、誰かに代弁してもらう方が良さそうです。

松葉　実は法律家でも、自分で自分を弁護するのは難しいものです。被告人とは別の人間が、被告人の立場に立って整理して主張し、証拠も集める。それが弁護士の役割です。

検察官は、国民全体の利益を代表する立場で、犯罪の捜査や被告人が犯罪を行ったことを立証する役割です。このような検察官とは、全く違う「在野」の弁護士が、被告人の言い分を主張する必要があるのです。三権分立という言葉を授業で習ったと思いますが、国会がルールである法律をつくり、行政が執行し、「司法」にはそのルールをチェックする役割があります。そして弁護士は、司法の中でも「在野」の立場からこのチェック機能を担っているのです。

あらゆる人に出会い、多くの人の力になれる弁護士

生徒　弁護士は、同時に複数の事件を抱えることもありますよね？　しんどいなと思う時はありませんか？

松葉　例えば民事事件は判決でどちらが負けるのでもだれだけ証拠集めをして、書面をたくさん書いても、主張が通らないこともあります。そんな時は非常に悔しい気持ちになります。

一つの事件で大変な準備をしてもうまくいかない、そんな事件で証人尋問を1日続けた日には、緊張と興奮が残ってその日の晩に頭が真べられないなんてことも……。これは多くの弁護士が経験していることだと思います。

生徒　司法試験に合格した後、裁判官・検察官・弁護士の中から、弁護士を選んだのはなぜですか。

松葉　司法修習生の時に出会った弁護士の力の影響が大きかったですね。弁護士というのは、社会におけるいろんな立場の人がいます。実に多くの人と会います。人を好きじゃないとできない仕事だと思います。そのんにこうで何が最良の解決策かを法律に当ってはめて考えていく。そんなことにやりがいがありますし、そんな仕事です。

本当に頼ってきますよ、そんな仕事です。

今回は、みなさんとお話ができてよかった。これから多くの社会をぶん入れるようですが、社会のほとんどの事柄は法律が関係しています。ぜひ興味を持ち続けて頑張ってください。

生徒　貴重なお話をありがとうございました。

◀ 座談会当日には、昨年の模擬裁判の主要メンバーだったOGも駆けつけてくれました。司会を務めたのが、模擬裁判の支援弁護士だった後岡美帆弁護士、第士綾真治弁護士の二人ということもあり、終始、和やかな雰囲気となりました。最後は、会長を囲んで記念撮影。

大阪弁護士会

企画・制作　(株)朝日エリア・アド

「憲法記念日」特別座談会

大阪弁護士会 OSAKA BAR ASSOCIATION × 同志社香里高等学校 Doshisha Kori Senior High School

私たちが社会で生活するとき、法律が関係しない事柄はほとんどありません。
政治や経済はもちろん、市民の日常生活にも法律は不可欠です。そんな社会において、弁護士の本質的な役割とはどのようなものでしょうか。
「第8回高校生模擬裁判選手権」関西大会で優勝した高校生たちと、大阪弁護士会会長の松葉知幸弁護士が、語り合いました。

弁護士がそばにいます

民主主義社会のために不可欠な「在野」の弁護士

松葉会長（以下松葉）　昨年優勝した模擬裁判の感想はどうでしたか？　弁護士や裁判のイメージは変わりましたか？

同志社香里高等学校生徒（以下生徒）　それぞれの立場で見方が違い、伝えるべきことを法廷の限られた時間のなかでどれだけ言えるかが、難しくも楽しかったです。ただ、本番まで準備の追いかけるのは大変でした。

松葉　立場によって物事の見方が変わるというのは、とても大切な視点です。生の事件を扱う弁護士にとっては、先入観を持たずに、その人の言い分を聞き、それを法律的に整理して上手く伝えるということが大切です。

一つの事件にかける時間ですが、刑事事件で共犯がたくさんいれば、半年以上、月に一、二回は裁判所に通うこともあります。その都度、準備には時間をかけて行きます。現実の裁判はやり直しができませんから、重大な事件で被告人が無罪を主張している場合などは、とくに緊張感があります。みなさんは模擬裁判で弁護側を体験したと思いますが、被告人の言い分をどうさばけましたか？

生徒　弁護人は被告人を守るべき立場ですから、被告人を信じないと成り立たないと思いました。弁護人が信じなければ、検察側の主張のみで、冤罪が生まれる可能性があります。だから被告人を信じてその味方になる弁護士が必要なのではないでしょうか。

松葉　そうですね。私たちは神様ではないので、100％の真実を知っている人はいません。弁護はそういうところから始まります。どのような事実があったのか、そこに至る経緯や状況はどうだったのか、検察側と弁護側それぞれの言い分を聞いたかわせ、裁判所が公平な立場から判断をする。それが、神様ではない私たちが人を裁くときに作り上げてきたルールです。

例えば、絶対的な専制君主がいる社会では、お前は気に入らないから有罪だ！ということも起こり得ますが、それを防ぐのが民主主義です。みんなでルールを作ってみんなで従い、ルールが悪け

弁護士／大阪弁護士会会長　松葉 知幸

まつば ともゆき／京都大学法学部卒。1978年、弁護士登録（30期）。81年に松葉法律事務所を設立。民事事件一般、会社法務、消費者被害の救済などを主な取扱い分野としており、85年に豊田商事被害者大阪弁護団事務局長、95年には先物取引被害全国研究会代表幹事を務める。日本弁護士連合会の常務理事、司法制度調査会委員長などを歴任し、2015年4月より、大阪弁護士会会長に就任。

大阪弁護士会　検索